

研究業績等に関する事項

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
著書	オペラの時代（「クラシック音楽の20世紀」第5巻）	共	平5年6月	（株）音楽之友社	
著書	オペラ・ハンドブック	共	平5年9月	（株）新書館	
著書	ヨーロッパの音楽祭	共	平6年11月	朝日新聞社	
著書	ヴェルディ／プッチーニ（作曲家別名曲解説ライブラリー）	共	平7年8月	（株）音楽之友社	
著書	200CD/LD オペラの発見	共	平7年9月30日	（株）立風書房	
著書	スタンダード・オペラ鑑賞ブック（1）（2）	共	平10年5月～9月	（株）音楽之友社	
著書	オペラ・キャラクター解説辞典	共	平12年6月	（株）音楽之友社	
著書	新編「音楽中辞典」	共	平14年3月	（株）音楽之友社	
著書	ヴェルディ 作曲家・人と作品	単	平16年6月	（株）音楽之友社	
著書	図解雑学 オペラの名作	共	平19年1月	（株）ナツメ社	監修
翻訳書	サルヴァトーレ・アッカルド 「アッカルド ヴァイオリンを語る」	単	平元年5月	（株）音楽之友社	
翻訳書	レシーニョ、フォレット共編 「ファブリ・カラー版 大作曲家の世界」全5巻	共	平2年5月～10月	（株）音楽之友社	
翻訳書	ジュゼッペ・タロツツイ 評伝ヴェルディ 全2巻	単	平4年7月	（株）草思社	
翻訳書	マリオ・ニコラーオ ロッシニ 仮面の男	単	平4年8月	（株）音楽之友社	
翻訳	ヴェルディの手紙を読む 作品編（20）	単	平成24年4月	NPO法人日本ヴェルディ協会 VERDIANA N.29	《ラ・トラヴィアータ》全3回の第2回として、創作に関連するヴェルディと関連人物の手紙を紹介。掲載頁：11-20
翻訳	放送用字幕 エクサンプロヴァンス音楽祭《フィガロの結婚》	単	平成24年8月	日本放送協会	2012年7月にエクサンプロヴァンス音楽祭で行われたモーツァルト《フィガロの結婚》公演（プリユネル演出、ショット、ピストレル、ケテルセン、プティボンほか）のライブ映像放送用の字幕。現代への置き換え演出なので、訳語の使い方にはかなり神経を使った。 初放映日：8月13日（NHK BSプレミアム）
翻訳	歌詞対訳 《仮面舞踏会》《リゴレット》《ラ・ボエーム》抜粋	単	平成24年9月	大野和士オペラレクチャーコンサートin 広島実行委員会	神奈川県立音楽堂で毎年行われていた「大野和士オペラレクチャーコンサート」が広島でも実現することになり（9月3日、広島県民文化センター）、その会場配布資料になった台本のオリジナル対訳。
翻訳	放送用字幕 ベッリーニ《夢遊病の女》	単	平成24年10月	日本放送協会	藤原歌劇団によるベッリーニ《夢遊病の女》公演月、新国立劇場のライブ映像放送用の字幕。 初放送日：10月29日（NHK-BSハイビジョン放送）
翻訳	ヴェルディの手紙を読む 作品編（21）	単	平成24年10月	NPO法人日本ヴェルディ協会 VERDIANA N.30	《ラ・トラヴィアータ》全3回の最終回として、創作に関連するヴェルディと関連人物の手紙を紹介。掲載頁：23-34
翻訳	放送用字幕 NHKニューイヤーオペラコンサート	共	平成25年1月	日本放送協会	恒例の正月クラシック番組、HNKニューイヤーコンサートの中継放送用の字幕。各国語のオペラからイタリア語の歌詞を担当。 放送日：1月3日（NHK教育）
翻訳	字幕原案 ヴェルディ《オベルト》	単	平成25年10月	昭和音楽大学	昭和音楽大学オペラ《オベルト》公演（10月5日、6日公演、テアトロ・ジューリオ）のために制作した字幕原案。字幕は演出に合わせて訳語や全体の雰囲気や決定する。また台本訳ではなく鑑賞に供するためにかなり字数を切り詰めるが、その字幕制作の基になる原案を作成した。最終字幕の制作は堀岡佐知子。
翻訳	放送用字幕 モーツァルト《コシ・ファン・トゥッテ》	単	平成25年10月	日本放送協会	新国立劇場公演モーツァルト《コシ・ファン・トゥッテ》公演（アベル指揮、ミキエレット演出、バージョン、ホロウエイ、天羽、ファンナレ、ケーニンガー他出演、2013年6月、新国立劇場）のライブ映像放送用の字幕。ミキエレットの現代風演出に合わせて日本語にさまざまな工夫を凝らした。 初放送日：10月21日（NHK-BSハイビジョン放送）
翻訳	放送用字幕 NHKニューイヤーオペラコンサート	単	平成26年1月	日本放送協会	恒例の正月クラシック番組、HNKニューイヤーコンサートの中継放送用の字幕。イタリア語の歌詞を担当。《ジャンニ・スキッキ》から「フィレンツェは花咲く木のように」、《タンクレーディ》から「君がこの心を燃え立たせ」ほか、イタリア語のオペラの歌詞を担当。 放送日：1月3日（Eテレ）
翻訳	ヴェルディの手紙を読む 作品編（22）	単	平成26年3月	NPO法人日本ヴェルディ協会 VERDIANA N.33	《シチリアの晩鐘》の前半。創作に関連するヴェルディと関連人物の手紙を翻訳紹介することで、作品の理解を深める。 掲載頁：9-17

翻訳	放送用字幕 ブッチーニ《蝶々夫人》	単	平成26年6月	日本放送協会	二期会公演《蝶々夫人》(ルスティオーニ指揮、栗山昌良演出、腰越真美主演、2014年4月、東京文化会館)のライブ映像放送用の字幕。画面の大きさと演出、カメラワークに合わせて日本語にさまざまな工夫を凝らした。 初放映日:6月9日(NHK-BSプレミアムシアター)
翻訳	ヴェルディの手紙を読む 作品編(23)	単	平成26年11月	NPO法人日本ヴェルディ協会 VERDIANA N.34	《シチリアの晩鐘》その2。創作に関連するヴェルディと関連人物の手紙を翻訳紹介することで、作品の理解を深める。 掲載頁:9-20
翻訳	ヴェルディの手紙を読む 作品編(24)	単	平成27年5月	NPO法人日本ヴェルディ協会 VERDIANA N.35	《シチリアの晩鐘》その3、最終回。創作に関連するヴェルディと関連人物の手紙を翻訳紹介することで、作品の理解を深める。 掲載頁:5-16
翻訳	放送用字幕 フリットリリサイタル	単	平成27年11月	日本放送協会	バルバラ・フリットリのソロ・リサイタル(10月1日、東京オペラシティホール)のライブ映像放送用字幕。5曲分。NHKクラシック倶楽部(11月27日放送)
翻訳	ヴェルディの手紙を読む 作品編(25)	単	平成27年11月	NPO法人日本ヴェルディ協会 VERDIANA N.36	グランド・オペラ《シチリアの晩鐘》につぐ実験的オペラ《シモン・ボッカネグラ》の制作に関する手紙から重要なものを選択。第一弾。
翻訳	放送用字幕 NHKニューイヤーオペラコンサート	単	平成28年1月	日本放送協会	HNKニューイヤーコンサートの生中継放送用の字幕。イタリア語の歌詞を担当。《ドン・カルロ》《椿姫》《アンドレア・シェニエ》《セビリアの理髪師》ほか。 放送日:1月3日(Eテレ)
学術論文	世紀末とイタリア・オペラの黄昏	単	平9年3月	日伊文化研究第35号 財団法人日伊協会	
学術論文	「トラヴィアータはなぜ改訂されたか」	単	平18年3月	昭和音楽大学 研究紀要第25号	
学術論文	「アビガイッレの様式上のモデル」	単	平20年3月	昭和音楽大学 研究紀要第27号	
学術論文	「歪められた英雄像 ヴェルディのアッティラ」	単	平24年3月	昭和音楽大学 研究紀要 第31号	
学術論文	「オペラ字幕ソフトについての考察」	単	平24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書。256-269頁。
(学術論文)	「人間ヴェルディの実像」	単	平成25年12月	ヴェルディアーナ第32号(紀要号) NPO法人日本ヴェルディ協会	日本ヴェルディ協会会報「ヴェルディアーナ」の「ヴェルディ生誕200年記念号」の特別寄稿の一つとして掲載された論文。音楽家としてのヴェルディよりもその人間性や性格を、新しい資料を紹介しながら新たに考察する。項目は「家系・家族」「ブッセートの住民との確執」「台本作者たち」「仕事の流儀」「ヴェルディとストレポーニ」について。 掲載頁11-25
雑誌寄稿	ヴェルディの手紙を読む(作品篇)	単	平15年6月～	NPO法人 日本ヴェルディ協会 ヴェルディアーナ(会報)	オペラ作品別に掲載継続中
評論・レポート	演奏会批評 《ナブッコ》	単	平成24年5月	グランドオペラvol.48 (株)音楽之友社	東京二期会公演《ナブッコ》(東京文化会館、2月17日)の公演批評で、オペラ専門誌「グランドオペラ」のカラーページに寄稿したもの。バルマ王立劇場との提携で指揮者と演出をバルマと同じもので東京に実現した公演で、24歳の指揮者バツィストーニの采配振りにも、ダニエレ・アッパードの演出にも見るべきものはあったが、日本の歌手がみんなヴェルディのスタイルを表現できたわけではない。 掲載頁:18-19
評論・レポート	演奏会批評 「ブラハ国立歌劇場トスカ」「レミジョ・リサイタル」 □	単	平成24年5月	グランドオペラvol.48 (株)音楽之友社	「グランドオペラ」の演奏会評「国内ステージ・ハイライト」に寄稿した2つの批評。ブラハ国立歌劇場の《トスカ》は簡素ながら伝統的な舞台美術にノルマ・ファンティーニの名演唱で感銘深いものになった。他の歌手や指揮者の欠点をこの名ソプラノは忘れさせる。伝統的なオペラの楽しさを思いださせる。「レミジョ・リサイタル」はバロックの造形からロマン派の奔放な表現まで魅力的に表現した素晴らしい一夜だった。 掲載頁:143, 147
評論・レポート	演奏会批評 《カヴァレリア・ルスティカーナ》《道化師》	単	平成24年10月	グランドオペラvol.49 (株)音楽之友社	東京二期会の新演出公演《カヴァレリア・ルスティカーナ》《道化師》(7月13日、東京文化会館)の公演批評で、カラーページに寄稿したもの。以下要旨。田尾下哲はヴェリズモ・オペラの写実性を捨て、結果的に詩情を捨てた知と技巧を強調した《カヴァレリア》を演出。《道化師》はめまぐるしいアイデアの奔流。指揮者のカリニャーノが音楽面から引き締め、歌手は若手の努力を讃えたい。掲載頁:12-13
評論・レポート	演奏会批評 中村恵里リサイタル	単	平成24年10月	グランドオペラvol.49 (株)音楽之友社	「グランドオペラ」のオペラ公演評「国内ステージ・ハイライト」に寄稿した批評。ヨーロッパで確実にキャリアを築き始めた中村恵里の「凱旋リサイタル」(9月14日、紀尾井ホール)の模様と彼女の日本人離れた資質を伝える。掲載頁:157
評論・レポート	ヨーロッパ 夏の音楽祭(イタリア)	単	平成24年10月	グランドオペラvol.49 (株)音楽之友社	海外音楽祭レポートで、アレーナ・デ・ヴェローナ、ベアザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、マチェラータ・スフェリステリオ・オペラ・フェスティバルの現地報告。6演目50公演のメガフェスティバルになったヴェローナ、若い新芸術監督ミケーレで始まった新体制のマチェラータ、フローレスの活躍と《パピロニアのチーロ》の復活上演で沸いたベアザロなどの模様を伝える。掲載頁:104-109

評論・レポート	レポート 「日本オペラ振興会オペラ歌手育成部」	単	平成25年12月	日本のオペラ年鑑2012 昭和音楽大学オペラ研究所	日本のオペラ界の人材育成に関する研究として、オペラ歌手育成機関の一つである「日本オペラ振興会オペラ歌手育成部」の内容と現状をレポートした。育成部の沿革、育成の目的、音大教育との違い、カリキュラム、現状と問題点などを岡山廣幸・育成部長へのインタビューをもとに構成し、紹介する。 掲載頁:51-54
評論・レポート	追悼カルロ・ベルゴンツィ	単	平成26年9月	音楽の友2014-09 (株)音楽之友社	「音楽の友」誌の「特別記事、追悼カルロ・ベルゴンツィ」に寄稿した小文。20世紀を代表する名テノールの一人としての業績をふり返る。 掲載頁:152
評論・レポート	ヴェルディとシェイクスピア	単	平成26年9月	音楽の友2014-09 (株)音楽之友社	「音楽の友」誌の「特別記事、生誕450年、シェイクスピアと音楽の素敵な関係」に寄稿した小文。シェイクスピアの戯曲がオペラ作曲家としてのヴェルディの成長にどれほど大きな影響を与えたかをコンパクトにまとめた。 掲載頁:114-115
評論・レポート	レポート 「名古屋における声楽家の人材育成についての現状と提言」	単	平成26年12月	日本のオペラ年鑑2013 昭和音楽大学オペラ研究所	日本のオペラ界の人材育成に関する研究として、名古屋地区の現状を報告した。取材は「コンセルヴァトリーオ名古屋二期会」で行い、教育方針と方法を聞き取り調査。また地方特有の問題をまとめ、今後の発展への提言をおこなう。 掲載頁:54-60
評論・レポート	演奏会批評 《マノン・レスコー》	単	平成27年5月	音楽の友2015-05 (株)音楽之友社	新国立劇場公演《マノン・レスコー》(3月9日)の公演批評。東日本震災の影響で中止になったプロダクションの復活上演で、舞台装置に凝らず演劇的な要素を出したデフロ演出が印象的。モランディ指揮東京交響楽団の香り豊かな演奏等についても述べる。 掲載頁:52
評論・レポート	書評 高崎保男「ヴェルディのオペラ全解説③」	単	平成27年6月	音楽の友2015-06 (株)音楽之友社	高崎保男によるヴェルディの全オペラ解説の第3巻《シチリアの晩鐘》以降。改訂や諸事情で複数の版がある作品についても詳しい説明が施されるなど第3巻の特色のほか、全3巻を通じてアカデミックな視点からの日本語で読める重要な解説の完結と述べる。掲載頁:News&information, 18.
評論・レポート	演奏会批評 第53回大阪国際フェスティバル《ランスへの旅》	単	平成27年6月	音楽の友2015-06 (株)音楽之友社	第53回大阪国際フェスティバルで、超絶技巧と祝祭の喜びに満ちたロッシェニ二作曲《ランスへの旅》が開幕公演として実現した。ペーザロ公演の外米組、藤原歌劇団の歌手、関西出身の若手歌手たちの混成にもかかわらず、87歳の指揮者アルベルト・ゼッタの指導が大きな成果をあげたことなどを指摘。 掲載頁:182
評論・レポート	演奏会批評 新国立劇場《椿姫》	単	平成27年6月	音楽の友2015-06 (株)音楽之友社	新国立劇場公演《椿姫》(5月10日)の公演批評で、カラー頁に掲載されたもの。フッサール演出が鏡を巧みに使ってヴィオレッタの心象風景を描き出したこと、死後の世界を実感させる終幕の秀逸さなど。イヴ・アベル指揮の音楽面でも優れていたこと、などを述べる。
評論・レポート	演奏会批評 藤原歌劇団《ランスへの旅》	単	平成27年9月	音楽の友2015-09 (株)音楽之友社	藤原歌劇団《ランスへの旅》(7月3日、日生劇場)の公演批評。松本重孝演出による本格的な舞台。軽妙さとユーモアのセンスで祝祭的な作品を成功に導く。ゼッタ(87歳)の名指揮によって、日本の歌手たちがダブルキャストで高水準の歌唱をきかせた。 掲載頁:42-43.
評論・レポート	書評 水谷彰良『新 イタリアオペラ史』	単	平成27年11月	音楽の友2015-11 (株)音楽之友社	「音楽の友」に寄稿した書評。水谷彰良の画期的な『イタリア・オペラ史』(2006年)の増補改訂版で、作品だけでなく、歌唱技巧、上演システム、検閲、オーケストラの規模など、上演にかかわる諸要素を記述の中に組み込んだ改訂などを高く評価する。 掲載頁:News&information, 18.
評論・レポート	レポート 「オペラの人材育成 サントリーホールオペラ・アカデミーの場合」	単	平成27年12月	日本のオペラ年鑑2014 文化庁/昭和音楽大学オペラ研究所	日本のオペラ界の人材育成に関する研究として、サントリーホール オペラ・アカデミーの理念と現状を報告した。オペラ/アカデミーを訪問し、教育方針と方法を聞き取り調査をまとめたもの。 掲載頁**
評論・レポート	レポート 野田版《フィガロの結婚》「庭師は見た」	単	平成27年12月	音楽の友2015-12 音楽之友社	春から全国を回っている井上道義指揮、野田秀樹演出による《フィガロの結婚》の東京芸術劇場公演(10月25日)について。イタリア語と日本語のちゃんぽん、物語の設定等は、オペラ上演の「東西文化摩擦」を素直に演出に取り込んだユニークなもの。野田ワールドが生き生きと表現されたことを評価。 掲載頁:50
評論・レポート	書評 ジェイン・グラヴァー「モーツァルトと女性たち」(白水社)	単	平成28年2月	音楽の友2016-02 音楽之友社	「音楽の友」に寄稿した書評。女性の視点からモーツァルトの活躍を眺めた著作で、姉ナンネル、母アンナ、妻コンスタンツェとその家族などとモーツァルトとの関係を、優しい眼差しで点検する。新資料はないが、視点を変えて天才の生涯を生き生きと描き出したことを評価する。 掲載頁:News&information, 18.
解説(CD、プログラム等)	ヴェルディとシェイクスピア	単	平成24年4月	新国立劇場	新国立劇場公演《オテロ》(4月1日～13日)の会場プログラムに寄稿した小論。ヴェルディの題材探しと時代背景の関連、彼がシェイクスピアに魅了された理由、さらに《マクベス》《オテロ》《ファルスタッフ》および完成されなかった《リア王》について、その特色とヴェルディの成長・発展について述べる。 掲載頁:31-34
解説(CD、プログラム等)	ヴェルディ「レクイエム」プログラム解説	単	平成24年4月	東京ニューシティ管弦楽団	東京ニューシティ管弦楽団「第81回定期演奏会」(4月25日、東京オペラシティ・コンサートホール)のためのプログラム解説。作品の成立と形式および内容。「第7曲リベラ・メ」は通常版ではなく「ロッシェニのためのミサ曲」のために書いた「原曲」が演奏されたので、それへの言及も。

解説(CD、プログラム等)	《トゥーランドット》 作品解説	単	平成24年8月	大田区民オペラ協議会	大田区民オペラ協議会公演2012、プッチーニ《トゥーランドット》(大田区民ホール、アブリコ大ホール、8月11日、12日)の会場プログラムのための作品解説。プッチーニの性格、作品の成立と特色、創造活動における作品の位置、物語の概要などについて。
解説(CD、プログラム等)	ベッリーニ《夢遊病の女》 作品解説	単	平成24年9月	(財)日本オペラ振興会	藤原歌劇団公演ベッリーニ《夢遊病の女》(新国立劇場、9月8日・9日)の会場プログラムに掲載した作品解説。概説としてベッリーニの位置、台本作者ロマーニ、作曲の経緯、初演歌手ルビーニとパスタ、批判校訂版についてなど。さらに鑑賞の手引きとして物語および各幕・場面の音楽的特色を述べる。 掲載頁: 16-25
解説(CD、プログラム等)	ドニゼッティ作曲《愛の妙薬》 作品解説	単	平成24年10月	昭和音楽大学	昭和音楽大学オペラ公演(テアトロ・ジリーオ・ショウワ、10月6、7日、松下京介・指揮、馬場紀雄・演出)の会場プログラムに載せた作品解説。
解説(CD、プログラム等)	レオ・ヌッチヴェルディを追求しつづけた バリトン	単	平成24年11月	(株)東京プロムジカ	東京プロムジカ主催ヌッチ・リサイタル(11月14日、東京オペラシティ)の会場プログラムに寄稿したエッセイ。70歳を迎えて未だに世界最高のヴェルディ・バリトンと評価されている奇跡のオペラ歌手について、1970年代にイタリアでその舞台上に接してから今日まで毎年の用に見聞きしてきたヌッチの成長と変化、そして現在の高い境地を、実例を紹介しながら語る。
解説(CD、プログラム等)	ヴェルディ《仮面舞踏会》 作品解説	単	平成25年2月	(財)日本オペラ振興会	藤原歌劇団公演ヴェルディ《仮面舞踏会》(東京文化会館2月10、11日)の会場プログラムに掲載された作品解説。最初の構想(ギュスタフ3世)からの複雑な創作過程から初演、登場人物、物語と音楽構成、音楽の特色など。掲載頁: 16-25
解説(CD、プログラム等)	ヴェルディ「レクイエム」 曲目解説	単	平成25年3月	NHK交響楽団	NHK交響楽団のホームページの公演案内に掲載した曲目解説。同交響楽団の定期公演Cプログラムのヴェルディ「レクイエム」(4月19、20日、NHKホール)について、「レクイエム」の音楽史的意味、作曲の経緯、ヴェルディの創作上の位置、楽曲構成、初演の様子と反響など。 http://www.nhkso.or.jp/
解説(CD、プログラム等)	マルグリットからヴィオレッタへ オペラは小説を越えたか	単	平成25年3月	びわ湖ホール プロデュースオペラ	びわ湖ホール、神奈川県民ホール、東京二期会、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団共同制作公演の「椿姫」(3月9、10日、びわ湖ホール)の会場プログラムに寄稿した論考。ヴェルディのオペラ「椿姫」と原作の小説および戯曲の関係性を明らかにし、ヴェルディのオペラが戯曲の平凡なレベルを越えたのはもちろん、原作の傑作小説の感動をものごう新たな価値を獲得していることを述べる。
解説(CD、プログラム等)	解説 嫉妬に取り憑かれた英雄 シェイクスピアからヴェルディへ	単	平成25年4月	朝日新聞社他	朝日新聞社、TBS、Bunkamura等主催、ヴェネーツィア・フェニーチェ歌劇場《オテロ》東京公演(チョン・ミュンファン指揮、クンデ、ガッロ他、4月17、19日、オーチャードホール)の会場プログラムに掲載された解説。シェイクスピアの『オセロー』の本質は嫉妬だが、この嫉妬が原作でどのように描かれ、それがヴェルディによってどのように解釈され、オペラにおいて音楽化されたかを、詳細に考察する。 掲載頁: 41-45
解説(CD、プログラム等)	解説 《オテロ》の音楽史的意義 オペラにおける「朗唱」の力	単	平成25年4月	朝日新聞社他	朝日新聞社、TBS、Bunkamura等主催、ヴェネーツィア・フェニーチェ歌劇場《オテロ》東京公演(チョン・ミュンファン指揮、クンデ、ガッロ他、4月17、19日、オーチャードホール)の会場プログラムに掲載された解説。オペラは「朗唱」から生まれたが、バロック時代にバロック技巧と結びつき独自の発展を遂げた。しかしロマン主義時代にオペラは次第にドラマへ回帰し、「朗唱」を取り戻す。《オテロ》の朗唱の音楽史的意義を解説。 掲載頁: 46-47
解説(CD、プログラム等)	ヴェルディ《ナブッコ》 曲目解説&「劇作家ヴェルディ」	単	平成25年5月	新国立劇場	新国立劇場公演ヴェルディ《ナブッコ》(5/19、22、25、29、6/1、4)の会場プログラムに執筆した曲目解説および作曲家小論。「曲目解説」は作曲の経緯、作品の特色、音楽の聴きどころを楽譜付きで解説。「劇作家ヴェルディ」は愛国オペラとして見られがちな《ナブッコ》ではなく、その音楽劇としての魅力を述べたもの、とくにアビガイルの出自を理解することの重要性を強調した。掲載頁: 14-24
解説(CD、プログラム等)	曲目解説 フリットリ・リサイタル	単	平成25年5月	東京プロムジカ	バルバラ・フリットリのリサイタル(東京オペラシティコンサートホール、5/19・大阪サンケイホールブリーゼ、5/21)の会場プログラムに掲載された曲目解説。ヴェルディ&ワーグナーの記念年のため二人の巨匠の歌曲をメインにプログラムが組まれ、そのイタリアものの部分(ヴェルディとトスティ)の解説を担当した。ワーグナーの歌曲担当は石川亮子。
解説(CD、プログラム等)	ヴェルディ「シモン・ボッカネグラ」 曲目解説	単	平成25年7月	NHK交響楽団	NHK交響楽団のホームページの公演案内に掲載した曲目解説。同交響楽団の定期公演Aプログラムのヴェルディの《シモン・ボッカネグラ》(11月8日、NHKホール)について、作品の成立、初演、改訂と作品の再評価、あらすじと聴きどころ等について解説する。 http://www.nhkso.or.jp
解説(CD、プログラム等)	解説 「《蝶々夫人》の中の日本」	単	平成25年9月	(財)愛知県文化振興事業団	愛知県文化振興事業団主催「あいちトリエンナーレ2013」プロデュースオペラ《蝶々夫人》(9月14、16日、愛知県芸術劇場大ホール)の会場プログラムに寄稿した小論。幻想の国、日本への憧れはロディの『お菊さん』やロングの『蝶々夫人』によってヨーロッパに受容され、やがてプッチーニのオペラが生まれたが、オペラは「憧れ」と「現実」の矛盾を抱えている。またそれを日本人が演じることの意味についても考察する。掲載頁27-32
解説(CD、プログラム等)	曲目解説 ヴェルディ《アイーダ》	単	平成25年9月	日本放送協会	恒例のNHK音楽祭に招聘されたドゥダメル指揮ミラノ・スカラ座管弦楽団の《アイーダ》(演奏会形式、9月19日、NHKホール)の会場プログラムに掲載された曲目解説。「あらすじ」「登場人物紹介」「作品解説」「聴きどころ」などに分けて会場の聴衆のための鑑賞の手引きとする。

解説(CD、プログラム等)	曲目解説 ヴェルディ《ファルスタッフ》	単	平成25年10月	東京藝術大学	藝大定期第359回となった「藝大フィルハーモニー定期演奏会+歌シリーズ 生誕200年ヴェルディ&ワーグナー」ではヴェルディ《ファルスタッフ》とワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》のそれぞれの抜粋が演奏された(演奏会形式)が、その会場プログラムに掲載された《ファルスタッフ》の解説。ヴェルディの創作の中での作品の位置、物語全体の紹介、第2幕の聴きどころなど。 掲載頁7-8
解説(CD、プログラム等)	解説 ヴェルディ《オベルト》	単	平成25年10月	昭和音楽大学	昭和音楽大学オペラ《オベルト》公演(10月5日、6日公演、テアトロ・ジューリオ)の会場プログラムに掲載したオペラ解説。物語と楽曲構成、登場人物紹介、作品の特色、時代劇としてのオペラなど、鑑賞に必要な内容をコンパクトにまとめた。
解説(CD、プログラム等)	曲目解説&対訳 「ヴェルディ生誕200年記念 Bravi!」	単	平成25年10月	徳間ジャパンコミュニケーションズ	藤原歌劇団と徳間ジャパンコミュニケーションズの協力によるCD第1弾で、藤原歌劇団の第一線の歌手によるヴェルディ・アリア、アンサンブル集のための作品解説および歌詞対訳。《カルメン》からの2曲を含む13曲を紹介。
解説(CD、プログラム等)	解説 「今日のマエストロ、サンティ」	単	平成25年11月	「フィルハーモニー」2013-11 NHK交響楽団	NHK交響楽団機関誌フィルハーモニーに掲載された指揮者ネッロ・サンティ紹介文。N響定期では珍しいイタリア人指揮者ネッロ・サンティのキャリアとN響における活躍と音楽的貢献、さらにサンティの音楽の魅力について解説する。 掲載頁3-6
解説(CD、プログラム等)	曲目解説 第292回横浜定期演奏会	単	平成25年11月	日本フィルハーモニー交響楽団	日本フィルハーモニー交響楽団第292回横浜定期演奏会(11月23日、横浜みなとみらいホール)の会場プログラムに掲載された解説文。生誕200年を迎えたヴェルディの《アイダ》《ファルスタッフ》《椿姫》《マクベス》《ドン・カルロ》からの楽曲の他、プッチーニの《マン・レスコー》とレスピーギの《ローマの祭》の曲目解説。
解説(CD、プログラム等)	曲目解説&対訳 「超絶 ロッシーニオペラの魅力 Bravi!」	単	平成26年1月	徳間ジャパンコミュニケーションズ	藤原歌劇団と徳間ジャパンコミュニケーションズの協力によるCD第2弾で、藤原歌劇団の第一線の歌手によるロッシーニ・アリア、アンサンブル集のための作品解説および歌詞対訳。《セビリアの理髪師》《湖の女》《羅・チェネントラ》《ギョーム・テル》《どろぼうかささぎ》《オリイ伯爵》《デメトリオとポリービオ》からの全11曲を紹介。
解説(CD、プログラム等)	解説 《ドン・カルロ》の上演版をめぐって	単	平成26年2月	東京二期会	東京二期会ヴェルディ《ドン・カルロ》公演(2月19、20、22、23日、東京文化会館)の会場プログラムに掲載された解説で、《ドン・カルロ》上演でつねに問題になるさまざまな版(バリ初演版、1872年ナポリ版、1884年ミラノ版、1886年モデナ版、1974年ギンテル校訂版)の特色、またその版を選択する意義などについて解説する。
解説(CD、プログラム等)	曲目解説 須藤慎吾「アリエ〜オペラ・アリア集」	単	平成26年4月	(株)ソニー・ミュージックダイレクト	バリトン歌手、須藤慎吾の個人オペラ・アリア集のためのライナー・ノーツ。須藤慎吾のバリトン歌手としての魅力と、曲目解説。ベッリーニ《清教徒》から「ああ、永遠に私はあなたを失った」、ドニゼッティ《愛の妙薬》から「魅惑的なバリスが」、ルチアから「残酷で不吉の奇立ちが」、ヴェルディ《椿姫》から「プロヴァンスの海と陸」、イル・トロヴァトーレから「君が微笑み」など、全11曲。
解説(CD、プログラム等)	解説 サンフランシスコ歌劇場公演 ドニゼッティ《ルクレツィア・ボルジア》	単	平成26年9月	(株)キングインターナショナル	サンフランシスコ歌劇場公演《ルクレツィア・ボルジア》(フリッツァ指揮、フレミング主演)のDVDに付属するライナーノーツ。作曲と初演、作品のあらすじ、作品の特色、この上演と演奏者について。この演目の映像は珍しく、貴重な資料になる。
解説(CD、プログラム等)	ベッリーニ《夢遊病の娘》解説	単	平成26年10月	昭和音楽大学	昭和音楽大学オペラ公演2014《夢遊病の娘》(10月11日、12日)の会場プログラムに掲載された作品解説。「解説とあらすじ」のほかに「ヒロインが狂乱するオペラ」という小エッセイも付ける。 掲載頁:8-11
解説(CD、プログラム等)	曲目解説&対訳 「プッチーニ 愛の名曲選 Bravi! vol.3」	単	平成26年10月	徳間ジャパンコミュニケーションズ	藤原歌劇団と徳間ジャパンコミュニケーションズの協力によるCD第3弾で、藤原歌劇団の第一線の歌手によるプッチーニ・アリア、重唱集のための作品解説および歌詞対訳。《ラ・ボエーム》から「冷たい手を」「私の名はミミ」、《蝶々夫人》から「ある晴れた日に」、《トゥーランドット》から「お聞きください、王子様」「誰も眠ってはならぬ」、《トスカ》から「歌に生き、愛に生き」など、全14曲を紹介。
解説(CD、プログラム等)	解説 ロッシーニ歌劇「泥棒かささぎ」序曲 歌劇「アルジェのイタリア女」序曲	単	平成26年11月	「フィルハーモニー」2014-11 NHK交響楽団	NHK交響楽団機関誌フィルハーモニーに掲載された曲目解説。各オペラの特色と、それぞれの序曲の音楽的特色と魅力をコンパクトにまとめた。同じ内容がホームページにも掲載される。掲載頁16、23 http://www.nhkso.or.jp/library/sampleclip/music_box.php?id=197 http://www.nhkso.or.jp/library/sampleclip/music_box.php?id=170
解説(CD、プログラム等)	作品解説・歌詞対訳 第14回ヴェルディ・マラソン	単	平成26年11月	NPO法人日本ヴェルディ協会 イタリア文化会館アネッリホール	日本ヴェルディ協会主催、ヴェルディ・マラソン・コンサート(11月30日、第14回)の、会場プログラムの曲目解説と全曲目の対訳。《オベルト》《ナブッコ》《二人のフォスカリ》《ジョヴァンナ・ダルコ》《群盗》《ルイーザ・ミッレル》《リゴレット》から重唱とアリア。 掲載頁:6-16、22-49
解説(CD、プログラム等)	作品解説 ヴェルディ《ファルスタッフ》	単	平成27年1月	(財)日本オペラ振興会	藤原歌劇団公演ヴェルディ《ファルスタッフ》(東京文化会館、1月24・25日)の会場プログラムに掲載した作品解説。概説として、アイデアの誕生から台本と音楽の制作、初演、作品の特色と価値、登場人物等を解説し、さらに鑑賞の手引きとして物語および各幕・場面の音楽的特色を述べる。 掲載頁:20-29

解説(CD、プログラム等)	作品解説 ブッチーニ《ラ・ボエーム》	単	平成27年2-3月	神奈川県立音楽堂	県立音楽堂開館60周年特別企画、ヴィヴァルディ《メッセニアの神託》日本初演(県立音楽堂大ホール、2月28日、3月1日)の会場プログラムに掲載した作品解説。ヴィヴァルディの晩年の作曲・公演活動と、当該作品の特色、さらに死後にウィーンで上演された経緯等を、コンパクトにまとめた。 掲載頁:6-8
解説(CD、プログラム等)	解説 実業家ヴェルディ 著作権から農園経営まで	単	平成27年4月	新国立劇場	《運命の力》公演(4月2日～)の会場プログラムに寄稿した解説。ヴェルディの実業家としての才能に焦点を当て、劇場との交渉術、著作権のイタリアへの導入、出版社との交渉術など、また農園経営での経営能力について。さらに稼いだ財を慈善事業に使ったその人生観などを紹介。 掲載頁:24-26
解説(CD、プログラム等)	解説 ヴェルディマラソンコンサート 解説	単	平成27年10月	NPO法人日本ヴェルディ協会	NPO法人日本ヴェルディ協会主催のコンサート(10月3日、イタリア文化会館アネッリホール)の内容企画、公演解説、会場プログラムの曲目解説。テーマを「為政者たちの運命」と定め、男声3名(テノール、バス、バリトン)のアリアと重唱で、ヴェルディのオペラの新たな視点を提示した。聴衆数212名。
解説(CD、プログラム等)	解説 モーツァルトのオペラ《フィガロの結婚》	単	平成27年10月	昭和音楽大学	昭和音大大学オペラ(10月10、11日、テアトロ・ジューリオ)の会場プログラムに寄稿した解説。作品の成立、物語と音楽構成、「人間を描く新しいオペラのモデル」。掲載頁12-15
解説(CD、プログラム等)	解説 「ヴェルディに《ファルスタッフ》を書かせた詩人ボーイト」	単	平成27年12月	新国立劇場	新国立劇場《ファルスタッフ》公演(12月3、6、9、12日)の会場プログラムに寄稿した解説。台本作者ボーイトの重要性に焦点を当て、その生い立ち、文化的背景、詩人・作曲家。評論家としての個性と、ヴェルディへの献身について語る。 掲載頁:20-23
解説(CD、プログラム等)	解説 ブッチーニ《蝶々夫人》	単	平成28年2月	藤原歌劇団	藤原歌劇団《蝶々夫人》公演(藤沢市民会館、2月27日)会場プログラムの解説。オペラの特色、物語と音楽の聴きどころなど。 掲載頁:8-15
解説(雑誌、新聞、テキスト)	特集ヴェルディ&ワーグナー 作品解説からベスト歌手まで(1)	共	平成24年5月	グランドオペラvol.48 (株)音楽之友社	オペラ専門誌「グランドオペラ」の特集で、生誕200年を迎えたヴェルディとワーグナーのベスト演目とベスト歌手を紹介する。演目はナブッコ、エルナーニ、アツティラ、群盗、マクベス、ルイーザ・ミッレル、リゴレット。歌手はデッシェー、ポロディナ、ヤオ、ベルティ、フラッカーロを担当。他にエッセイ「ヴェルディ歌手は幻想か」を執筆。 掲載頁:42-49, 57, 59, 62, 65-66, 70, 89.
解説(雑誌、新聞、テキスト)	特集ヴェルディ&ワーグナー 作品解説からベスト歌手まで(2)	共	平成24年10月	グランドオペラvol.49 (株)音楽之友社	オペラ専門誌「グランドオペラ」で、生誕200年を迎えたヴェルディとワーグナーのベスト演目とベスト歌手を紹介する特集の第2弾。演目はラ・トラヴィアータ、シモン・ボッカネグラ、仮面舞踏会、運命の力、ドン・カルロ、アイーダ、オテロ、ファルスタッフ、歌手はニッツァ、メーリ、グエルフィ、ヌッチ、スカンディウッチ、ガッロを担当。 掲載頁:28-35, 47, 51-55
解説(雑誌、新聞、テキスト)	解説 「新たなレパートリーが時代を拓く チェーリリア・バルトリの場合」	単	平成25年4月	レコード芸術2013-05 (株)音楽之友社	「レコード芸術」誌の特集「MUSEの系譜、演奏史を彩る女たち」に寄稿したエッセイ。次々に新たなレパートリーを開拓して注目されるソプラノ歌手チェーリリア・バルトリの活動を20世紀のマリア・カラスのそれと対比させ、オペラの多様な受容の方法に道を開いたバルトリの功績を賛える。 掲載頁:32
解説(放送等)	NHKカルチャーラジオ講座 「イタリア・オペラの変革者・ヴェルディ」	単	平成25年4月 ～6月	NHK第2放送	NHKカルチャーラジオで13回にわたって放送したもの(毎週水曜日30分番組、全国放送)。生誕200年を迎えたヴェルディの生涯と創作活動を概観しつつ、イタリア・オペラの変革者としての観点から彼の発想の革新性、名作オペラに隠れたさまざまな独創的工夫などを確認しながら、新たなヴェルディ像を示す。NHK文化センター青山教室で講座方式で行った講演を収録し、ラジオ用に編集した。
インタビュー	黒田博 インタビュー	単	平成24年5月	グランドオペラvol.48 (株)音楽之友社	「グランドオペラ」の連載企画「小畑恒夫のオペラの魔力」コーナーで、二期会の看板バリトンであり、株式会社二期会21の社長でもある黒田博をゲストに、大画面でオペラを見ながら行なったインタビュー記事。《ニルンベルクのマイスタージンガー》、《バルジファル》《フィガロの結婚》《ドン・ジョヴァンニ》などの映像を見ながら、60周年を迎えた二期会の歩み、最近の傾向と戦略、黒田氏個人の思いなどを聞く。 掲載頁:98-100
インタビュー	木村俊光 インタビュー	単	平成24年10月	グランドオペラvol.49 (株)音楽之友社	「グランドオペラ」の連載企画「小畑恒夫のオペラの魔力」コーナーで、新国立劇場オペラ研究所所長の木村俊光をゲストに、大画面でオペラを見ながら若手歌手育成の現状を中心に行なったインタビュー記事。掲載頁:82-84
インタビュー	小森輝彦 インタビュー	単	平成25年4月	グランドオペラvol.50 (株)音楽之友社	「グランドオペラ」の連載企画「小畑恒夫のオペラの魔力」コーナーで、ドイツ・チューリンゲン州ゲラ市立劇場の専属バリトン歌手、日本人初の宮廷声楽家の称号を持つ小森輝彦氏をゲストに迎え、大画面でオペラを見ながら行なったインタビュー記事。《リゴレット》《シモン・ボッカネグラ》《マクベス》などの映像を見ながら、ドイツの地方劇場の実情、外国の歌手生活で考えたこと、日本のオペラ界への思いなどを聞く。 掲載頁:98-100
インタビュー	ケン＝リン・ウィルソン インタビュー	単	平成26年3月	音楽の友2014-14 (株)音楽之友社	月刊誌「音楽の友」のインタビュー欄ビープルに掲載されたカナダ指揮者ケン＝リン・ウィルソンへのインタビュー記事。新国立劇場《蝶々夫人》で優れたオーケストラさばきを聞かせた女流指揮者の教育的背景、オペラとの出会い、イタリアとドイツのスタイルの違い、オペラとオーケストラ曲を指揮することの違い、今後の抱負などを聞く。